

# しれとこ の森通信

2011  
No. 14

100平方メートル運動の森・トラスト

## 運動地取得完了特集号

2010年度の活動報告

エヅシカと森づくり

運動は33年をかけて大きな節目を迎えることができました。運動地の取得完了は地権者の皆さま、斜里町民の皆さま、そして運動参加者の皆さまの賜です。

斜里町は、歴代の町長が先頭に立って運動を守り育ててきましたが、私もこれからの森づくりを通して数百年後の大きな夢の実現に向けて取り組んでいく覚悟です。

引き続き、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

斜里町長 馬場 隆  
(2011年5月1日就任)

岩尾別川に立つカツラの大木。  
その頂きは役割を終えたが、  
若い枝葉が次世代を担おうとしている。

この用紙は環境保全（資源活用）のため古紙配合紙を使用しています。



**NATIONAL TRUST**

知床で夢を育てませんか!

いのちあふれる森を次の世代へ



# 100平方メートル運動地取得完了

「しれとこで夢を買いませんか!」の呼びかけから33年・・・  
保全対象地のすべてを取得しました!

## 「100平方メートル運動地」

運動地の面積は、運動で取得した土地と元々の町有地を合わせた約860畝、距離にすると知床自然センターの西側から知床五湖にいたる約10キロの区間です。今回取得した土地は、北側を国有林に、南側を知床自然センターや100平方メートル運動ハウスなどが建つ「幌別台地」に接しています。



## 33年目の目標達成

2010年11月、「しれとこ100平方メートル運動」の保全（買い取り）対象地として最後まで残されていた11・92ヘクタールの開拓跡地を取得しました。1977年の運動開始から33年間という歳月と多くの方々のご支援を受け、この度、目標としていたすべての保全対象地の取得を完了することができたのです。

## 運動の展開

運動による最初の取得地は、8名の開拓農家が所有していた119・72ヘクタールの土地でした。価格の設定に始まり、価格交渉や税務署との協議などを経て、1977年、開拓跡地の保全第1号となりました。

その後も全国から寄せられた寄付金をもとに開拓跡地の取得を進めながら、「森の再生」という運動参加者の皆さんとの約束を果たすため、取得した土地に木を植える作業を続けてきました。しかし、その歩みもすべてが順調だったわけではありません。

開拓跡地の一部には、いわゆる「原野商法」の対象として不動産業者の手に渡り、すでに転売されていたケースもありました。それらの土地を投機目的で共同購入していたある所有者の方々からは、高額な価格を提示され、一時は土地の取

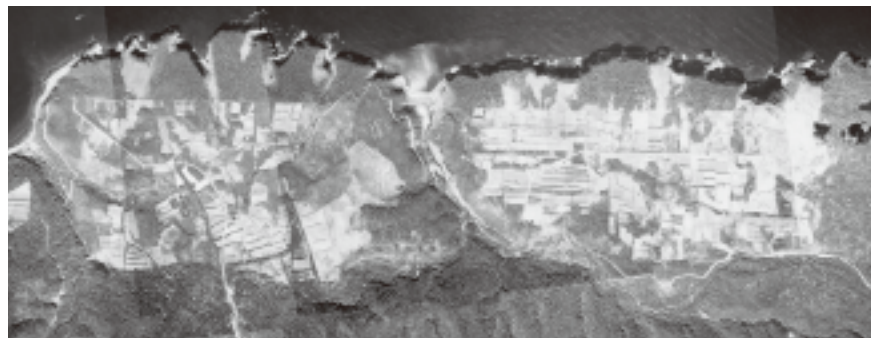


現在の運動地 (2009年撮影)

空中写真出典:1974, 2009林野庁撮影(23林国経第3号 平成23年5月24日 林野庁承認)

### 運動開始以前の開拓跡地 (1974年撮影)

1977年の運動開始以前の開拓跡地の様子です。写真の白い部分は農地や牧場があったところですが、この当時、すでにここで暮らす人はいませんでしたが、まだはっきりと開拓の跡が残っています。



得が危ぶまれた時期もありました。しかし、その後も粘り強く交渉を続けた結果、運動の趣旨と担当者の誠意ある対応が理解され、2年半後にはこの交渉も円満にまとまりました。

また、首都圏の土地所有者との交渉では、足かけ10年にもおよぶ案件もありました。その他、交渉に訪れた際に不動産業者と間違えられることもあるなど、一度や二度の訪問では、お話すら聞いてもらえないことも度々でした。

知床の開拓跡地を買い戻し、ここにかつてあった本来の森を取り戻すという「夢の場」の確保に向け、一件一件の交渉を地道に積み重ねてきたのです。今回の最後の対象地取得も、長年の交渉の末、地元の所有者の同意をいただいたものです。

運動開始から33年、この間、57名(件)の土地所有者の方々にご協力をいただきました。そして、全国各地の知床を思う多くの方々のご支援をいただいて、ここに知床の「夢」がひとつ実現したのです。

**しれとこで夢を買い戻せんか**

現在の運動地、知床国立公園内の幌別・岩尾別地区では、大正から戦後にかけて幾度かの開拓が行われました。そして、多くの人々が農業や酪農を中心とした生活を営んでいましたが、開拓政策や社会状況の変化などにより、1970年代ま





で、ここに暮らしていた人々は、次々とこの地を離れました。そして、当時日本各地で起こっていたリゾート開発や土地投機のブームの波は知床にも押し寄せ、幌別・岩尾別の開拓跡地も乱開発の危機にさらされ始めたのです。そんな時代背景の中、開拓跡地の保全の方法に頭を悩ませていた当時の故藤谷斜里町長は、イギリスのナショナル・トラスト運動にヒントを得て、土地を買い取り守る運動を提唱しました。これが「しれとこ100平方メートル運動」です。

この運動は、一口8千円として募った寄付金をもとに開拓跡地を買い取り、開拓以前にあつたような本来の知床の森を再生するという壮大な事業です。1977年の開始以来、運動の趣旨に賛同する全国各地の方々から、たくさんの寄付が寄せられ、知床への思いを託されたこの運動は着実にその歩みを進めていきました。

### 運動の広がり

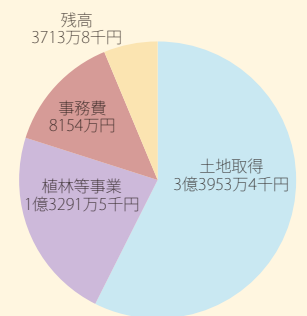
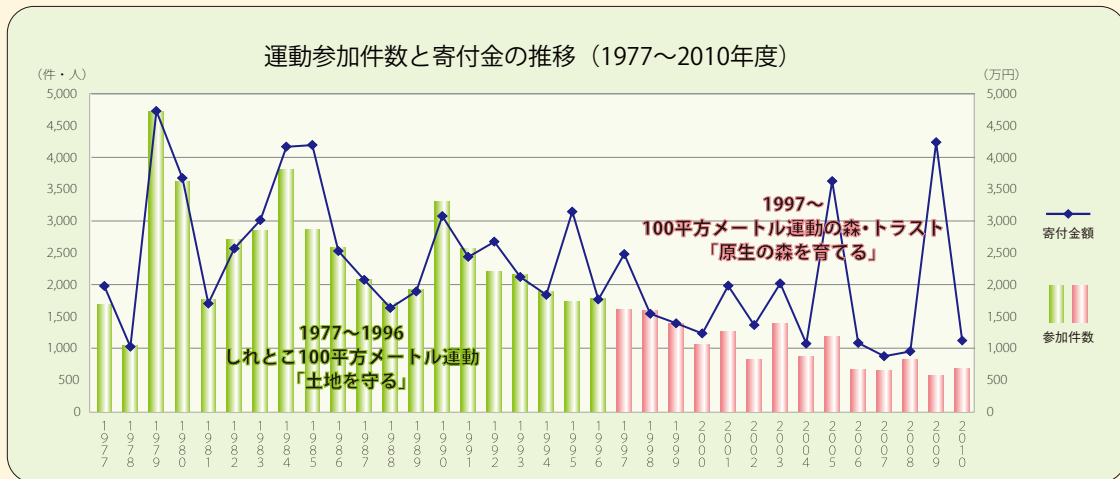
1982年、運動開始5周年を記念して、国内で初めてナショナル・トラストを考えるシンポジウムが知床で開催されました。このシンポジウムでは、その後の日本のトラスト運動のあり方を方向づける採択がなされ、翌年の「ナショナル・トラストをすすめる全国の会」（現・社団法人日本ナショナル・トラスト協会）の発足につながるなど、日本の環境保護

運動にとっても大きな意義を持つ会議となりました。また、小さな地方自治体が始めたトラスト運動は、諸外国からの視察や訪問が相次ぐなど国際的にも注目を集めたほか、国内でも新聞など様々なメディアで取り上げられ、運動は全国に拡大していきました。

### 隣接する国有林の伐採

この知床にも危機が訪れました。守られた運動地に隣接する国有林が伐採されたのです。1986～87年にかけて起こった「知床伐採問題」です。当時、林野庁からこの伐採計画が発表されると、全国各地から反対の声が巻き起こりました。そんな中、林野庁は計画を実行し数百本の木の伐採が行われました。しかし、反対の世論はますます高まり、林野庁は最終的に伐採計画を中止せざるを得ない状況に追い込まれたのです。そして、この知床の伐採問題は、その後の林野庁全体の政策を「切る」から「保全」を重視する方針へと転換させる契機になったとも言われています。

国有林の伐採反対の声の中心には、知床に思いを託した100平方メートル運動参加者の皆さんがいました。知床への思いが運動地の枠を越えて、知床の森を、そして日本の森を守ることにつながっていったのです。



### 1996年度までにいただいた寄付の使途

総額：約5億9112万7千円（寄付金+利子）

1977年～1996年度に約5億2千万円のご寄付をいただきました。その他、利子を含め総額約5億9千万円を「土地保全管理資金」として管理し、土地の買い取り費用の他、取得した土地への植林や下刈り作業の費用に使用しました。また、事務費として、事務員の賃金や「しれとこの森通信」の印刷・発送費用にも充当しています。

なお、この度の土地取得完了に伴い、2011年度よりこの資金は「森林再生事業」の会計に統合して運用していきます。よって、左記の残高約3千700万円は、統合された会計に組み込まれ、今後とも知床の運動の資金として活用させていただきます。

### 「守る」から「育てる」へ

1997年3月には、残りの保全対象地を取得するために必要な寄付金が目標額に達しました。まだ一部の対象地の取得は残るものの、買い取り資金の目途がついたため、いったんここで区切りをつけ、運動は次なる目標へと進むことになったのです。これまでの20年間で、この運動に寄せられた寄付は、4万9024件、約5億2千万円でした。

運動の第2ステージは、現在の「100平方メートル運動の森・トラスト」です（寄付金は一口5千円）。「森の再生」を大きな目標に掲げ、守られた運動地に、かつてあった本来の知床の森と生き物たちの営みを取り戻すための活動を日々行っています。そして、この森づくり作業と並行して、残る開拓跡地の取得に向けた交渉を継続してきた結果、昨年、最後の対象地の取得に至ったのです。

1977年の運動開始から2010年度末までに、全国から6万3604件の賛同者、総額7億7200万円を超える寄付をいただいています。

### 知床の「夢」は続く

最後の取得地は、多くのビジターが訪れる知床自然センターや、運動に寄付をいただいた方々のお名前を掲示している

「100平方メートル運動ハウス」に隣接していることから、森づくり作業の場としてだけではなく、運動と森づくりを伝える場所として活用していく方針です。そして、この一帯を、過去から未来へと続く知床の「夢」を語り継いでいく運動の発信拠点として機能させていきたいと考えています。

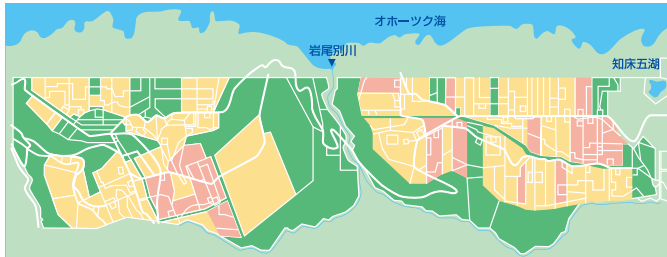
百年先、二百年先の未来に、より豊かな森が知床に広がっているように、かつてあった知床の森を再生させる森づくり作業を継続していきます。次の知床の「夢」を実現させるため、小さな町の大きな挑戦はこれからも続きます。



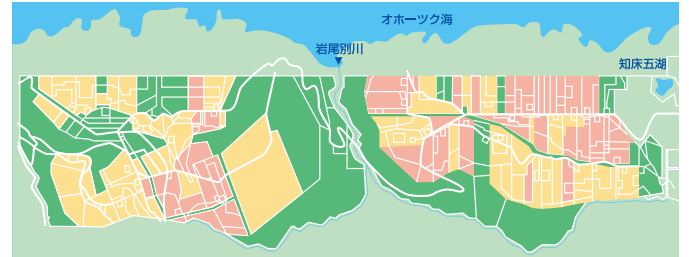
## 100平方メートル運動地取得の変遷

保全対象地
  運動で取得した土地
  元々の町有地

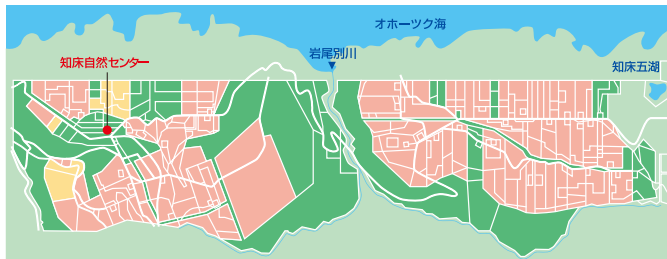
33年間をかけて取得した運動地の変遷をご紹介します。開拓跡地の取得にあたっては、開拓当時の農地などの区画をもとに買い取りが進められました。また、取得した運動地には、順次アカエゾマツなどの植栽を行いました。



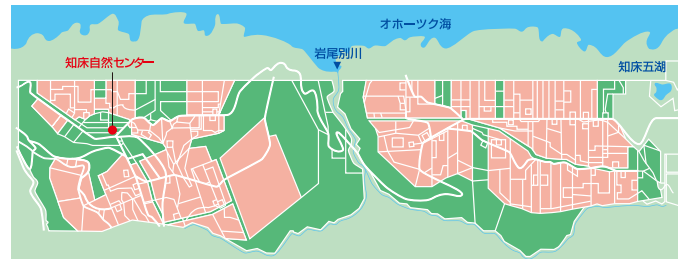
**1977年(保全率 25%)**  
「しれとこ100平方メートル運動」開始。同年、8軒の開拓農家から約119畝を取得しました。



**1980年(保全率 40%)**  
北海道内だけではなく全国各地の土地所有者とも交渉を重ね、少しずつ取得地が広がっていきました。



**1997年(保全率 95%)**  
保全のための寄付金額が目標に到達。一部の保全対象地は残るものの、運動の目標を「森の再生」に発展させ新たなスタートを切りました。



**2010年(保全率 100%)**  
最後の対象地を取得し、運動地の保全完了。運動で取得した土地と元々の町有地、計約861畝が夢の場として後世へと引き継がれていきます。

### 保全された土地の現状

運動地面積	運動で取得した土地	471.18畝
861.87畝	元々の町有地	390.69畝

### 運動地の扱い

運動で取得した土地は、斜里町の町有地として扱われます。そして、斜里町は条例で運動地の「譲渡不能の原則」を定め、永久に保全管理していくことをお約束しています。

### しれとこ100平方メートル運動の歩み

- 1977年(昭和52年) 「しれとこ100平方メートル運動」の提唱  
開拓跡地の買い取りを開始
- 1982年(昭和57年) 運動5周年シンポジウムを開催
- 1987年(昭和62年) 林野庁が隣接する国有林を伐採
- 1997年(平成9年) 20年目で募金目標に到達(3月)  
新たな展開「100平方メートル運動の森・トラスト」のスタート  
森の生態系を再生する作業を本格的に開始(6月)
- 2002年(平成14年) 運動地を一巡した第一次回帰作業が完了
- 2003年(平成15年) 第二次回帰作業の開始
- 2005年(平成17年) 知床が世界自然遺産に登録
- 2007年(平成19年) 「しれとこ100平方メートル運動」の提唱・開始から30年が経過  
第二次回帰作業が完了
- 2008年(平成20年) 第三次回帰作業の開始
- 2010年(平成22年) 最後の保全対象地を取得





## 「知床からのメッセージ 〜土地の取得に関わって〜」

2010年、「1000平方メートル運動」は、大きな目標のひとつである開拓跡地の取得を完了しました。この取得完了までの歩みの中で、土地所有者の皆さんと交渉を行うなど実際に土地の買い取りに関わった当時の担当者の声をお届けします。

1984〜1987年、斜里町役場の担当者として運動の実務に携わった大瀬昇さんに当時のエピソードや知床への思いなどについてお話を伺いました。

土地の買い取りに携わった中で、特に印象に残っている交渉がふたつあります。ひとつは、いちばん最後まで開拓地にお住まいになっていたご家族との交渉です。交渉時には、すでに離農されていましたが、このご家族は、幌別地区に1970年代前半までお住まいになっていました。その当時、娘さんは家から5キロ近く離れた

ウトロの学校に通っていたそうです。ウトロの街に近づくまでは辺りに家もなく、子ども一人での行き帰りはたいへんだっただろうかと、後になって思い返してみたこともありません。

1985年に、このご家族との交渉が成立しました。その時、自らの手で耕し、生活した思い出の土地を手放す気持ちはどのようなものかを考え、しみじみとした気持ちになったことを覚えています。この交渉の席には大きくなった娘さんも同席されていました。

もうひとつは、開拓跡地を土地業者から共同購入していた東北のある地域の方々との交渉です。親戚や知人など十数人のグループで、それぞれ小口に分譲された土地を購入されておりました。幸い皆さんが比較的近いところにお住まいだったので良かったのですが、もしこの土地が全国各地に散り散りに転売されていたとしたら、その買い取りはとても困難なものになっていたかもしれせん。

当初、この方々との交渉は、買い取り価格の面などでなかなか折り合いがつきませんでした。ど

うやら土地業者からかなり高額な値段で土地を購入していたようです。別の要件で上京する機会があればその足で何度も交渉に伺いました。その他、電話や手紙などで話し合いを重ねた結果、最終的には運動の趣旨を理解していただき、交渉をまとめることができました。長期間に及ぶ交渉の間には、別の土地業者からこの土地を売ってほしいとの話があったのですが、「知床の自然のために」というこちらの思いが通じ、協力してくださったのだと思っています。

運動が始まって30数年間が経ちました。運動や知床国立公園の利用計画など自然保護行政に関わってきた身から振り返ると、いろいろな面でよくがんばって続けていると感じています。それと同時に、運動地という夢の場の確保は終えることができたが、100年単位となる「森の再生」は、まだまだこれからという思いも持っています。その目標に向かって森づくりを進めながら、この運動や知床の自然をより多くの皆さんに伝えていくことも今後の大切な取り組みになってくると思

ます。

斜里町がこの運動を続けてこられたのは、地元の斜里町の皆さんをはじめ全国の運動参加者の皆さんのおかげです。運動参加者の皆さんの中には、「せめて知床の自然だけでも」という気持ちで寄付をくださった方もいらっしゃると思いますが、守り育てなければならぬ場所はもちろん知床だけではありません。この運動や知床が、それぞれの身近な自然についても見つけ直すきっかけになってもらえれば、そんな知床からのメッセージを感じていただければうれしいですね。



大瀬 昇さん

元斜里町役場職員  
(当時環境保全係長)

おおせ のぼる

1948年生まれ。在職時、100平方メートル運動の他、斜里町の自然保護行政に深く関わる。

# 2010年度の活動報告

森づくりの様子をご報告します

2010年度の森づくりは、岩尾別台地の西側に位置する第3区画を中心に作業を進めました。

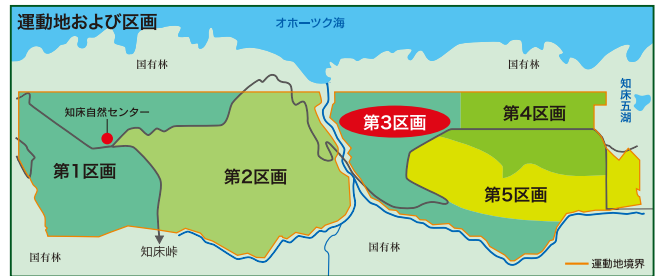
苗畑での除草や苗木の根づくり作業のほか、春と秋には育てた広葉樹の苗木約320本を防鹿柵の中に植え込みました。また、3カ年計画で取り組んできた岩尾別川沿いにある3つの防鹿柵の改修を完了させるなど、知床の森づくりは、1年を通じて様々な作業を展開しています。

これらの作業は、スタッフだけではなく、ボランティアや森づくりイベントの参加者の皆さんなどたくさんの方々に支えられています。ご参加いただいた皆さんにこの場を借りて感謝申し上げます。そして、未来の知床の森のために、今後ともご協力の程、よろしくお願いたします。



## 森づくり作業

シカの侵入を防ぐ防鹿柵は、森づくりには欠かすことができません。2010年度は、岩尾別川沿いにある3つの防鹿柵を中心に、老朽化した防鹿柵の改修作業を進めました。



5つの区画を5年で一巡する回帰作業は、現在3巡目を迎えています。



## しれとこの森交流事業

「第31回知床自然教室」には全国各地から36名の子どもたちが集まり、知床の森で1週間を過ごしました。その他、10月には「第14回しれとこの森の集い」(参加者140名)、11月には「第14回森づくりワークキャンプ」(参加者15名)を開催しました。



## 知床森づくりの日

新イベント「知床森づくりの日」を5月(参加者8名)と8月(同14名)の計2回開催し、大きな木の移植や防鹿柵の改修作業を行いました。

森林再生専門委員会議(11月)。新たな取得地などの視察を行い、今後の方針について議論しました。



過去に放流したサクラマス<sup>マサキ</sup>の追跡調査。毎年、数尾が運動地の川に帰ってきていることが確認されています。



斜里高校1年生の自然体験学習。生徒80人が植樹を行いました。



運動地の看板作り。2010年度は、のべ130人のボランティアの方々に協力いただきました。



## ■ 国立公園内森林保全基金の状況

(単位：千円) (2011年5月31日現在)

国立公園内森林保全基金									
土地保全管理資金 (保全事業のための資金)				森林再生等資金 (再生事業のための資金)					
		2009年以前	2010年	計			2009年以前	2010年	計
歳入	寄付金	522,534	0	522,534	歳入	寄付金	238,603	11,200	249,803
	利息	68,551	42	68,593		利息	857	101	958
	計	591,085	42	591,127		計	239,460	11,301	250,761
歳出	土地取得	325,113	14,421	339,534	歳出	事業費	155,342	10,021	165,363
	植林等事業	132,792	123	132,915		事務費	30,328	2,968	33,296
	事務費	81,540	0	81,540		計	185,670	12,989	198,659
	計	539,445	14,544	553,989		残高	53,790	△1,688	52,102
残高		51,640	△14,502	37,138					

## 2010年度の 事業決算

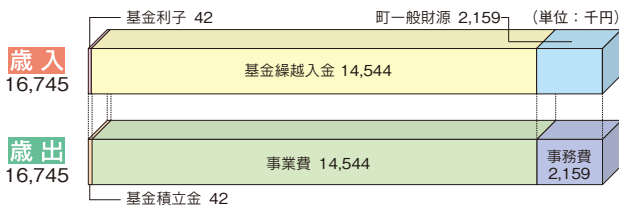
活動資金の決算を  
ご報告します

### ■ 保全管理事業

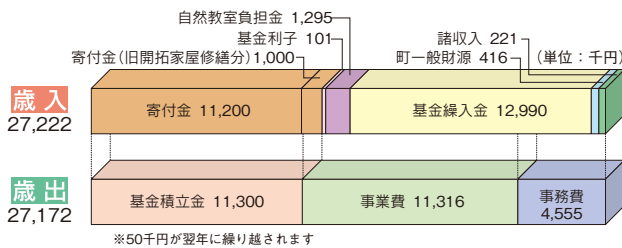
保全対象地の取得費として約

1400万円を支出しました。その他、事務費として「しれとこの森通信」の発行費用に約200万円を支出しています。2010年度は、土地の取得を行ったため、その分、全体の決算額が大きくな

### ■ 保全管理事業



### ■ 森林再生事業



### ■ 森林再生事業

森づくり作業のための事業費として総額約1131万円を支出しました。その内訳は、知床財団への森林再生業務委託費の1100万円が主なものです。また、事務費として「しれとこの森通信」や発送用の封筒などの印刷費、受付事務員の賃金などに455万円を支出しました。なお、2010年にいただいた寄付金約1120万円は、いったん運動の基金に積み立て、2011年度以降の活動資金として活用していきます。

## 2011年度の 事業予算

ふたつの事業を  
統合しました

### ■ 森林再生事業

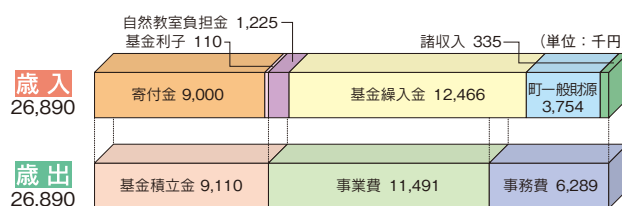
これまでは、「保全管理」と「森林再生」に分けて事業を行っていましたが、運動地の取得完了にもない、2011年度より、これらを「森林再生事業」に統合し活動を行っていきます。そのため、これまででふたつの事業に区分けしていた活動資金も一本化して管理していきます。

2011年度の総事業費は、約2689万円を予定しています。収入は、これまで積み立ててきた運動の基金から1247万円、斜里町の一般財源から375万円を繰り入れる他、寄付金の目標額900万円、その他として167万円を見込んでいます。支出は、森づくり作業や交流事業などの現地業務の委託費として知床財団に1100万円を事業費から支出します。また、事務費と

### 2011年度の主な森づくり作業

岩尾別台地の第4区画(P8参照)を中心に作業を行います。広葉樹の植樹作業の他、防鹿柵の補修や樹皮保護ネットの巻き直しなどメンテナンスを作業を進めます。

### ■ 森林再生事業



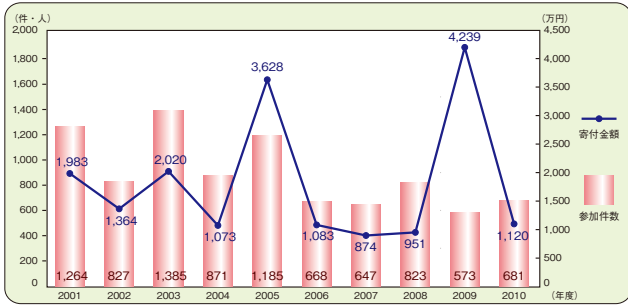
して、「しれとこの森通信」や運動参加者募集パンフレット等の印刷・発送費用に311万円、受付事務員の賃金に173万円など総額629万円を支出予定です。

## お見舞い

このたびの東日本大震災において、地震や津波に遭われた方々、またご家族やご友人が被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

過去33年間に岩手・宮城・福島の方々からは、1300名以上の方々から当運動へのご寄付をいただいています。皆さまの知床への思いを胸に、一日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

## 運動参加件数と寄付金の推移（2001～2010年度）



## 寄付(運動参加)のお礼

2010年度も  
たくさんの寄付を  
いただきました

2010年度も全国各地の皆さんの皆さまから681件、約1100万円の寄付が寄せられました。昨年は、運動地の保全完了や知床世界遺産登録5周年など節目の年となったため、前年より100件ほど多い参加件数となっています。

新潟県の方からは、亡くなられたご家族のご遺志として300万円の寄付をいただきました。また、斜里町出身者の方々が構成する北見斜里会様からは20万円の寄付をいただいています。

知床の森づくりをご支援くださった皆さまへ、ここに改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 旧開拓家屋の保存に寄付

斜里町在住のご家族から、運動地に現存する最後の旧開拓家屋の保存に役立ててほしいと100万円の寄付をいただきました。先頃お亡くなりになったご主人が、開拓当時この家にお住まいになっており、「自分の死後、あの家の維持管理のために寄付をしたい」との遺志をご家族が継がれたものです。

2008年には、運動の始まりとは切り離せない開拓の歴史を残すため、この家屋の簡易的な修繕を行っていましたが、今回この寄付金をもとにさらに建物内部の床や壁を修復した他、屋根や壁の塗り替え作業などを行いました。

これからもこの残された旧開拓家屋をとおして、知床にも人の歴史があることを未来へ伝えていきます。



修復された旧開拓家屋の内部。家屋の中に残されていた雑誌や食器、家財道具を置き直し、当時の生活の様子を再現しました。

## 寄付(運動参加)のお願い

知床で夢を  
育てませんか！

数百年後の豊かな森と生物相の復元に向けた取り組みは、運動参加者の皆さまからの寄付金によって支えられています。引き続き暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

### ●寄付(運動参加)の方法

寄付金は一口「5千円」です。

### ①郵便振替の場合

- ・申込書を郵送またはファックスで斜里町役場へ送信してください。
- ・寄付金を郵便振替で斜里町役場にお送りください。

### ②現金書留の場合

- ・申込書を同封の上、現金書留を斜里町役場にお送りください。



森通信の発送が不要な方はお知らせください。

通信物の発送停止をご希望の方は、お手数ですが、斜里町役場までご連絡ください。なお森通信は運動のホームページでもご覧になれます。

## ■お申込み・お問い合わせ先

〒099-4192  
北海道斜里郡斜里町本町12番地  
斜里町役場 自然保護係  
TEL：0152-23-3131 FAX：0152-22-2040

口座番号：02740-8-10555  
加入者名：斜里町役場



寄付をいただいた方に募金証書をお送りします。ご家族・ご友人へのプレゼントにもおすすめです。

\*申込書のダウンロードや森通信のバックナンバーはこちらから。

「100平方メートル運動の森・トラスト」ホームページ  
<http://www.town.shari.hokkaido.jp/100m2/>

◎運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度（ふるさと納税）の対象となります。  
・所得税は課税対象額から寄付控除を受けることができます。  
・地方公共団体への寄付金に係る控除が拡大され、住民税は課税額から寄付控除を受けることができるようになります。

・控除の対象は、所得税が2千円、住民税が5千円を超えるご寄付です。



## 横浜で 運動をPR

知床世界自然遺産  
登録5周年



「知床Loversの集い」と題された横浜での集まり。参加者の年齢層も10代から80代まで。世代を越えて知床や運動について語り明かしました。

2010年、知床が世界自然遺産に登録されて5年の節目を迎えたことから、6月の2日間、横浜にて5周年記念のシンポジウム（環境省等主催）が開催されました。会場には運動を紹介するブースを出展し、訪れたたくさんの方々に、「知床の今」をお伝えするとともに、夜には、運動にゆかりのある方々が一同に集う機会を設け、関東と関西の支部の皆さんを

始めとする総勢60名以上が「知床話」に花を咲かせました。

会場にお越しいただいた皆さん、ブース出展にご協力いただいた関東在住の知床自然教室卒業生の皆さん、ありがとうございました。

## 関東・関西支部 からのお知らせ

関東・関西在住の  
運動参加者の  
皆さまへ

100平方メートル運動推進関東支部と関西支部では、知床から遠く離れたそれぞれの地域で、知床自然教室などの交流事業のサポートや運動を伝える独自の活動を行っています。今後、各支部からイベントなどの案内等の送付を希望される方は、ファックス等で斜里町役場自然保護係までお知らせください（連絡先は前頁参照）。

## エゾシカと森づくり

運動地とその周辺でエゾシカの実験的な捕獲が始まります

森づくりの現場では、日々がエゾシカとの戦いであり、「シカから樹木を守る作業」にほとんどの労力が費やされている現状をこれまでもお伝えしてきました。運動地に限らず、急増したシカは世界自然遺産地域の生態系や生物多様性に大きな影響を与えています。

前号でもお知らせしましたが、すでに環境省事業としてシカの個体数調整が行われている知床岬だけではなく、運動地を含む幌別・岩尾別地区においても、遺産地域の保護管理の一環として実験的な個体数調整が始まります。

森づくりの現場では、日々がエゾシカとの戦いであり、「シカから樹木を守る作業」にほとんどの労力が費やされている現状をこれまでもお伝えしてきました。運動地に限らず、急増したシカは世界自然遺産地域の生態系や生物多様性に大きな影響を与えています。

エゾシカの生息密度が特に高く、希少植物や森林への影響が深刻な知床岬地区では、2007年度から3年間、実験的捕獲を実施するとともに、その効果を測定する調査が集中的に行われました。その結果、一定の植生回復の効果が認められたことから、2010年度からは正式な捕獲事業として継続

早ければこの冬から、幌別・岩尾別地区でも世界自然遺産の管理事業として、3年程度の予定で実験的な個体数調整が始まります。その具体的な手法については、これから議論されることとなりますが、一般的な銃による捕獲だけではなく、ワナでの捕獲などいくつかの手法を組み合わせて行うことになりそうです。

捕獲に合わせて、その効果検証のための調査も行われます。植生の回復傾向がどの程度見られるのか、捕獲による負の影響はないか、

各分野の専門家からなる「知床世界自然遺産地域エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ」の中で評価を行った上で、本格的な個体数調整に移行するかどうか判断されることとなります。

今、運動地のエゾシカ対策は、新たな段階に入ろうとしています。

# 2011年度の活動予定 知床の森づくりカレンダー

イベント＆ボランティア

知床の森づくりの一年間。数百年先の未来の森を夢見て、日々さまざまな作業を行っています。

⑤ イベント ⑥ ボランティア募集日



### 春の森づくり

Q 本格的な野外作業の始まりは5月の連休明けからです。雪解けを待って、苗木を育てている苗畑での作業を開始します。芽吹きまでの数週間、植樹や大きな苗の移植、秋の植樹用の苗木の準備など大忙しです。

### 5月

- ⑥ 13日(金)～15日(日)
- ⑤ 20日(金)～24日(火)  
「第3回 知床森づくりの日・春」\*終了
- ⑥ 27日(金)～29日(日)

### 6月

- ⑥ 3日(金)～5日(日)
- ⑥ 10日(金)～12日(日)
- ⑥ 24日(金)～26日(日)  
27～29日:斜里高校自然体験学習

### 夏の森づくり

Q 苗畑では雑草が一気に草丈を伸ばし、除草作業に追われます。この他、シカ柵や作業道の補修などに加え、運動地内の川に帰ってくるサクラマス産卵状況を確認する調査なども行います。

### 8月

- ⑤ 7/30(土)～8月5日(金)  
「第32回 知床自然教室」
- ⑤ 26日(金)～30日(火)  
「第4回 知床森づくりの日・夏」

### 9月

- ⑥ 2日(金)～4日(日)
- ⑥ 9日(金)～11日(日)
- ⑥ 16日(金)～18日(日)
- ⑤ 22日(木)～26日(月)  
「第5回 知床森づくりの日・秋」

### 10月

- ⑥ 9/30(金)～10月2日(日)
- ⑥ 7日(金)～9日(日)
- ⑥ 14日(金)～15日(土)
- ⑤ 16日(日)  
「第15回 しれとこ森の集い」

### 11月

- ⑤ 10/30(日)～11月4日(金)  
「第15回 森づくりワークキャンプ」  
中旬:森林再生専門委員会議

### 秋の森づくり

Q 秋も植樹や苗の移植に適した季節です。冬を目の前にした最後の季節、ボランティアの皆さんの手を借りながら、苗畑作業やシカ柵の点検など秋の森づくり作業は、雪で道が閉ざされるまで続きます。

### 2012年1月

- ⑥ 21日(土)～22日(日)
- ⑥ 28日(土)～29日(日)  
下旬:「スノーシュー・歩くスキーコース」オープン

### 2月

- ⑥ 4日(土)～5日(日)
- ⑥ 11日(土)～12日(日)
- ⑥ 18日(土)～19日(日)
- ⑥ 25日(土)～26日(日)

### 冬の森づくり

Q 冬、運動地周辺は、エゾシカの越冬地となります。シカの冬のエサとなる木々を守るため、保護ネット巻き作業などを行います。その他、スキーコースの設置や看板作製なども冬の仕事です。

## 2011 大募集 「知床のために」が合言葉！ イベント参加者募集！

知床の森づくりには、あなたの力が必要です。それぞれの季節でイベントやボランティアの参加者を募集中。皆さま、知床の森でお待ちしています！

### 第32回 知床自然教室

- 日 程: 7月30日(土)～8月5日(金) 6泊7日
- 対 象: 小学校4年生～高校3年生
- 定 員: 40名(先着順)
- 参加費: 35,000円(別途、現地までの交通費)
- 申 込: 7月8日(金)まで

全国から集まる仲間とともに、知床の森で暮らす一週間！

### 知床森づくりの日

- 日 程: (夏) 8月26日(金)～30日(火) 4泊5日  
(秋) 9月22日(木)～26日(月) 4泊5日
- 定 員: 12名(18歳以上)
- 参加費: 16,000円(宿泊・食費等込)
- 申 込: 各開催日の2週間前まで

4泊5日の森づくり合宿で夏と秋の知床の森を体験しませんか！

### 第15回 しれとこ森の集い(植樹祭)

- 日 程: 10月16日(日)
- 参加費: 無料
- ※こちらの参加申込み等は斜里町役場まで  
【斜里町役場自然保護係】  
TEL: 0152-23-3131 FAX: 0152-22-2040

午前中は森歩き、午後は植樹祭。秋の知床を満喫する1日です！

### 第15回 森づくりワークキャンプ

- 日 程: 10月30日(日)～11月4日(金) 5泊6日
- 対 象: 18歳以上
- 定 員: 15名(先着順)
- 参加費: 18,000円(宿泊・食費等込)
- 申 込: 10月16日(日)まで

森の番人指導のもと本格的な森づくり作業に打ち込む6日間！

Q イベント・ボランティアの参加申込み・お問い合わせはこちらまで。 詳しくは知床財団 HP で!  
「公益財団法人知床財団 自然復元事業係」 TEL: 0152-24-2114 MAIL: info@shiretoko.or.jp 知床財団 で検索!